

胃X線検査(バリウム)を予約されている方への説明書

※過去に胃X線検査を受けたことがある方でも、下記に当てはまる方は受けられませんので事前にご連絡をお願いします。

また下記に該当しない方でも、安全を考慮し検査を実施できない場合がありますのでご了承ください。

健康診断として安全の確保、および該当項目によっては検査精度・診断精度が著しく低下することから、ご理解をお願いいたします。

また、団体契約により胃内視鏡検査への変更ができない場合があります。

1. 下記①～⑩の項目に該当した場合は胃X線検査(バリウム)実施不可となりますので必ずご確認ください。

*該当する項目がある場合は事前に胃内視鏡検査(胃カメラ)への変更または胃X線検査(バリウム)のキャンセルのご連絡をお願いします。

- ①妊娠中またはその可能性のある方
- ②透析中の方、腎臓病や心臓病の治療中で水分制限のある方
- ③過去1年以内に虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症等)や脳血管障害(脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血等)を発症した方
- ④脳圧亢進でシャント中の方
- ⑤血圧 180/110mmHg 以上の方(当日の測定でこの値を超えている場合も危険なため検査ができません)
- ⑥バリウムを誤嚥したこと(気管末梢まで流入した、検査中止となった等)がある方
- ⑦3日間排便がない方(前回バリウム排出できず医療機関を受診した方含む)
- ⑧発泡剤で迷走神経反射を起こしたことがある方
- ⑨体重 160kg以上の方(装置の仕様制限による)
- ⑩バリウム製剤に過敏症(アレルギー)のある方(蕁麻疹、息苦しさ、手足が冷たくなる)

★上記に該当された方は必ず事前にご連絡をお願いします。

2. 下記①～⑧は検査前に主治医の許可が必要です。許可がない場合は検査不可となりますので、必ずご確認をお願いします

*主治医がいない場合はかかりつけ医にご相談ください

- ①腸閉塞、腸ねん転の既往がある方(または現在その疑いがある方)
- ②過去1年以内に外科手術
《頭部、胸部(心疾患「カテーテル治療も含む」、呼吸器疾患等)、腹部(腹腔鏡下、帝王切開等)、整形領域》をした方
- ③炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病・憩室炎等)や上部消化管疾患で治療中の方
- ④消化管(上部・下部)手術の既往がある方
- ⑤内視鏡的大腸ポリープ切除後2か月未満の方
- ⑥出産後2か月未満の方
- ⑦喘息の発作が頻繁にある方
- ⑧メニエール病の方

3. 下記項目は検査中に危険と判断した場合は検査中止させていただく可能性がありますのでご了承ください。

- ①介助や特殊な対応が必要な方(検査台上でスムーズに体の向きを変えることができない、バリウムコップを自分で持てない方)
- ②言葉が通じない方(日本語も英語もわからない)方、理解困難な方

4. 下記内容は注意点です。事前によくご確認ください。

- ・取り外し可能な医療機器(インスリンポンプ、持続グルコース測定器、刺激装置など)は、X線の影響を受けることがあるため、検査前に必ずご自身で取り外しが必要です。取り扱い方法や不明点、取り外せない機器については主治医に確認してください。
- ・検査実施後は下剤を飲んでバリウムを排出する必要があります。便が出ずにバリウムが腸の中で停留することにより腸閉塞や虫垂炎、消化管穿孔、腹膜炎など重篤な合併症のおそれがあります。バリウムの排出を促すため、検査後できるだけ早く食事を摂り、終日こまめに水分を摂るようにしてください。
通常は2～6時間で白っぽい便が排出されます。
通常便が出るまで確認してください(トイレに排出したバリウムは流れにくいいため大量のお水で流してください)。
- ・翌日になってもバリウムを含む便が少量しか排出されない場合や、腹痛などの症状があらわれた場合は、直ちに当診療所または最寄りの医療機関にご相談ください。
- ・バリウムが排出されるまではアルコールは控えてください。

5. 下記内容の確認をお願いします。

糖尿病の治療薬を服用の方は、食事制限により低血糖を引き起こすことがありますので服用しないでください。

インスリン注射をご使用の方は当日の単位数に関して主治医に確認し、低血糖予防のため、

ブドウ糖など糖類をお持ちください。

GLP-1受容体作動薬(糖尿病・やせ薬)を内服または注射している方は、胃腸の動きが悪くなり、食べ物が胃に残りやすく検査精度に影響があるため、主治医に相談し可能であれば、検査前7日間休薬してください。また検査後、バリウムの排出が困難になる可能性がありますので必ず下剤の服用をお願いいたします。